

令和 4 年 4 月 2 0 日

## 令和 3 年度 特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
上尾市立平方小学校	上尾市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立平方小学校ウェブサイト 令和 3 年度特別の教育課程の自己評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/hirakata-elementaryschool/309856.html">https://www.city.ageo.lg.jp/site/hirakata-elementaryschool/309856.html</a>
学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	上尾市立平方小学校ウェブサイト 令和 3 年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/hirakata-elementaryschool/309856.html">https://www.city.ageo.lg.jp/site/hirakata-elementaryschool/309856.html</a>
保護者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	上尾市立平方小学校ウェブサイト 令和 3 年度特別の教育課程の保護者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/hirakata-elementaryschool/309856.html">https://www.city.ageo.lg.jp/site/hirakata-elementaryschool/309856.html</a>

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまで A L T の配置や、各校、カリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週 2 9 コマ等）など、英語教育を推進してきた。平成 3 0 年度から、小学校 3 ・ 4 学年で 3 5 時間を、小学校 5 ・ 6 学年で 7 0 時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

また、令和元年度から、小学校 1 ・ 2 年生においては、学校教育法施行規則第 5 1 条に定められる授業時数以外で、年間 1 0 時間程度の外国語活動を実施するほか、英語の授業以外に、休み時間等を活用し、児童と A L T が自由に会話を楽しむイングリッシュトークの実施を通して、日常的に A L T と触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

学習指導要領の完全実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

- ア 小学校 1 ・ 2 学年において、1 年生は年間 3 4 時間、2 年生は年間 3 5 時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施する。
- イ 本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

- (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性  
本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍する力を育成する。
- ア 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

- (3) 特例の適用開始日  
令和2年4月1日

- (4) 取組の期間  
無期限

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

- (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている  
・ 一部、計画通り実施できていない  
・ ほとんど計画通り実施できていない

- (2) 実施状況に関する特記事項

- ・ 小学校第1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施した。
- ・ 1単位時間である45分授業を構成するにあたり、学級担任はALTと連携し、「触れよう・慣れよう・慣れ親しまよう」という流れで英語によるコミュニケーションに慣れ親しませながら、児童が自らの考えや気持ちを伝え合う場を設定した。毎授業、前回の内容を繰り返し、英語によるコミュニケーションに慣れさせた。
- ・ 校内研修を年2回実施し、教員の英語力や英語指導力の向上に努めた。
- ・ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が進むよう、英語活動充実のための検討委員会が開発した指導案及び教材を活用し、授業研究会を開催した。
- ・ CAN-DO リスト改訂版を活用しながら、学習到達目標を児童が達成できるよう支援した。

- (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している  
・ 実施していない

## <特記事項>

- ・学校だより、学校情報配信アプリ等を活用して、英語活動の様子を情報発信した。
- ・年3回配付する通知表に英語活動に関する所見を載せた。
- ・学校運営協議会委員による英語活動の授業参観を行った。

## 4. 実施の効果及び課題

### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中9年間を見通した英語教育を推進するものである。

1・2年生保護者を対象とした本校英語活動実態調査・意識調査の結果から、「本校は積極的に英語活動を推進している。」と約69%が回答した。また、「お子様は、学校の英語活動の様子について、話している。」では、約76%の保護者が肯定的な回答をした。週1回の英語活動が2年を経過する中で浸透し始め、児童・保護者の実感として現れ始めたと考えられる。また、「本校の英語活動は、お子様のコミュニケーション能力の育成に役立っている。」では、61%の保護者が肯定的な回答をしており、家庭生活の中で子供たちの変容を徐々に感じているものと考えられる。

一方課題もある。「お子様は、御家庭で時々英語を使って話そうとしている。」と46%の保護者が肯定的な回答をしているが、約半数は否定的な回答をしている。楽しく学習でき、自発的に英語を使ってみたいと思う児童の育成により力を入れ、研究を深めていく必要がある。また、「お子様は、日本や外国の文化に興味・関心を示している。」という設問も、肯定的な回答と否定的な回答は半々であった。授業を通して、日本や外国の文化の魅力を伝えていくことも課題として挙げられる。

### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、ALTが常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの生きた英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化に触れたりしている。そのため自然と他国を尊重する心を育てている。また、ALTの問いかけに対して無反応の児童がほぼおらず、積極的にコミュニケーションを図ることができていた。

一方で、慣れ親しんだ英語表現を日常的に生かすことが、アンケート結果からできていないと推察される。学校で培われた力を家庭でも試す取組を実践することが課題である。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、適切な学習評価を進めていくことが重要であると考えている。英語活動充実のための検討委員会で作成した指導事例及び教材の活用、また、市教委主催の研修を活用しながら、児童の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を推進していく。